

～上五明条里水田址を訪ねる～

◇はじめに

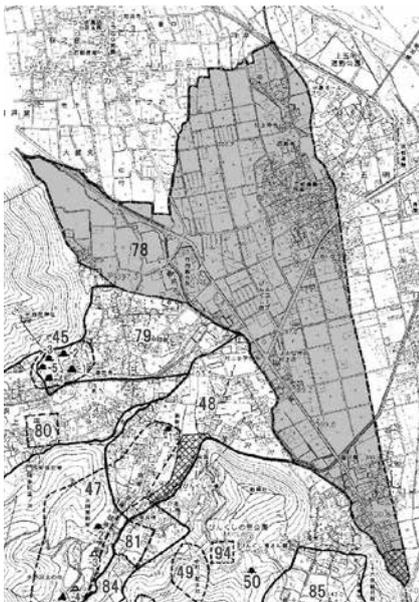
晩秋の山々を背景に、稲刈りが終わった田んぼや畑、住宅や工場が立ち並ぶ風景が広がっています。慣れ親しんだ風景ですが、この景色の地下には、たくさんのお宝が眠っています。今回は、そうしたお宝の一つで、九月から長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査が実施されている「上五明条里水田址」を訪ねます。

◇「上五明条里水田址」って

どんな遺跡？

上五明条里水田址は、千曲川の左岸に広がる古代から近世にかけての水田の跡です。推定される範囲は、上五明、網掛、上平にかけてと広く、北端は千曲市の力石条里遺跡群に接しています。遺跡の立地を見てみると、千曲川によって形成された自然堤防とその後ろの後背湿地上に広がっている遺跡であると言えます。

上五明条里



上五明条里水田址の範囲（アミカケ部分）

水田址では、平成六年度の農道整備事業に伴う発掘調査を始め、様々な開発事業に伴い、坂城町教育委員会や長野県埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われてきました。令和三年度からは、国道十八号坂城更埴バイパス改築工事に伴う発掘調査が長野県埋蔵文化財センターによって進められています。

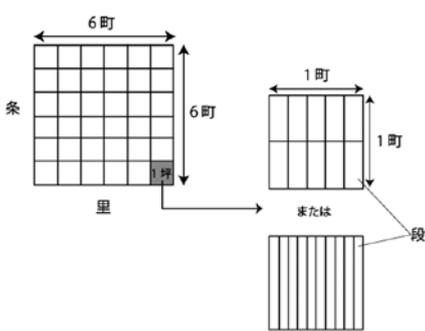
これまでの調査から、上五明条里水田址では、古代から近現代に至るまでの水田が何層にも積み重なっていることが判明しています。平安時代頃の水田址からは畦によって区画された条里の痕跡が認められました。また、仁和四年（八八八年）に起こった千曲川の洪水である「仁和の洪水」

によって堆積した砂の層や、古墳時代後期と平安時代の集落跡も見つかっています。

◇「条里」って何だろう？

遺跡名にある「条里」とは、古代日本で用いられた耕作地の土地区画です。一町（約一〇九m）四方の区画を一坪とし、坪を横に六個並べて里、縦に六個並べて条としました。

古代日本では、統治のため信濃国や出雲国などの「国」の下に埴科郡や更級郡といった「郡」、さらに「里（郷）」が置かれていました。条里による区画は、概ね各国の郡ごとに定められています。○●国△△郡□□条××里◇◇坪、と呼ぶことで、土地の位置が正確かつ簡単にわかるようになります。耕作法の形も整えられま



条里制の模式図

した。ただし、細かいところまで方形の区画を設定したわけではなく、地形に合わせた地割を行ったと考えられています。

現在、町内各所で整然と区画された田畑を見ることができ、形は異なりますが、古代の人々も区画された田畑が広がる風景を眺めていたかもしれません。

◇発掘調査で見えてきた

古代の風景

古代の水田跡が多く見つかっている上五明条里水田址ですが、水田だけでなく古墳時代後期と平安時代の集落が発見されたことで、古代の人々の生活の様子も分かってきました。当時の住まいである竪穴住居の跡からは、土師器や須恵器の杯、甕、壺などが出土しています。杯は、浅めのお椀のような形をした食器です。甕や壺は、煮炊きや貯蔵用の容器として使われました。また、古代の台所であるカマドも見つかっています。ムラの周りで収穫したコメや木の実やキノコ、千曲川で獲れた魚をカマドで料理して、美味しく

ただいたのかもしれませんがね。

こうした暮らしの跡のほかに、ものづくりの痕跡も発見されています。令和四年度に行われた発掘調査では、平安時代後期の集落から鉄の精錬に使われた製鉄炉跡が見つかったことが報告されています（長野県埋蔵文化財センター）。製鉄炉や周辺からは、炉壁片や鉄



製鉄炉の炉壁の一部



製鉄炉跡（令和4年度現地説明会）

滓（精錬の際に出る不純物の塊）、羽口など、製鉄や鍛冶に係る遺物が出土しました。ものづくりの町として、鉄や金属加工に縁の深い坂城町で、古代から製鉄が行われてきたことを物語る貴重な発見と考えられます。

◇令和五年度の発掘調査

本年度も国道十八号坂城更埴バイパス改築工事に伴う発掘調査が進められています。九月から始まった調査の様子を、長野県埋蔵文化財センターのご協力です。ちよつと覗かせていただきました。



令和5年度調査地（中央下が調査区）

本年度の調査地は、県道七七号線から東へ一三〇mほど入った場所にあります。遺構が見つかる面が何層も重なっているため、四面にわたる発掘調査が予定されています。発掘調査現場を訪ねた十一月月上旬は、このうち第二面の調査中で、地下約二mから水田跡が検出されていきました。町内では、浅いところから遺跡が見つかることが多いのですが、遺跡がとて深いところにある点は上五明条里水田址の特徴の一つです。この面は、前述の仁和の洪水による砂層よりも下に位置するため、検出された水田跡は、これよりも古い時期のものにとらえられます。このほかに、調査区内では古代の地形も確認されています。調査区の中央から西側が窪地地形となる一方、東側は微高地地形となっています。現在の地面はほぼ平らですが、古代の地形は窪地や島状の微高地がみられる凹凸のある地形であったようです。水田は窪地のほうに作られており、地形を生かし



令和5年度発掘調査の様子
（写真左が窪地地形、右が微高地となっている）



見つけた水田跡

た土地利用がされていることがわかります。その後、水田は仁和の洪水の影響を受け、洪水の後は再び耕作地となります。長野県埋蔵

文化財センターによりまして、水田は洪水による被害と復旧を繰り返しています。途中から水田ではなく畑に転用された可能性も考えられるとのことです。発掘調査は十二月月上旬までの予定で、この後第三面と第四面の調査が行われます。

◇おわりに

発掘調査からは、古代の人々の暮らしぶりだけでなく、生業や人々を取り巻く環境、災害などを窺い知ることが出来ます。普段は目にする機会の少ないそうした歴史の積み重ねが、私たちの足元には確かに存在し、現在に繋がっているように思います。

坂城町のホームページでは、町内の遺跡地図を公開しています。また、文化財センター展示室では、今回ご紹介した上五明条里水田址を始め、町内の遺跡から出土した遺物を間近で見ることが出来ます。町の地下に眠っていた歴史の一端に、ぜひ触れてみてください。

（篠井ちひろ）